

北九州市公共事業評価に関する検討会議及び 市民意見を踏まえた市の対応方針

事業名	【事前評価 1】 新門司工場基幹改良工事（延命化）
-----	------------------------------

北九州市
令和4年4月

公共事業評価に関する検討会議及び市民意見を踏まえた市の対応方針

(対象事業:新門司工場基幹改良工事(延命化))

【対応方針】

事業実施に向けた準備を継続することとし、事業内容がより具体化された後に、事業評価2を行うこととする。

【対応方針決定の理由】

【事業の背景】

工場の果たすべき役割として、市内で発生する一般廃棄物、市外ごみや災害廃棄物の受け入れを行っている。

また、新門司工場の役割として、ごみの受け入れだけでなく、熔融による埋立処分量の削減やスラグ・メタルの資源化物としての再利用、ごみ発電による再エネ100%電力化への貢献がある。

更に、国の事業支援として、CO2削減率3%以上となる設備については、交付金等の仕組みがあり、国も基幹改良工事を積極的に推進している。

【事業の必要性】

新門司工場は、平成19年の供用開始から15年が経過しており、平成28年から長期間の稼働停止を要する設備故障が増加傾向にあり、処理能力の低下も進行している。

基幹改良工事を実施せずに残りの2工場体制となった場合、市内ごみ、他都市ごみや災害ごみの処理ができなくなる。

【事業の経済性】

基幹改良工事と施設の建て替えを比較した結果、総合的な環境負荷に大差はなく、基幹改良工事の方が経済的に優位である。

【検討会議及び市民意見募集での評価】

今回の公共事業評価に関する検討会議では、本事業を計画どおり進めていくことについて、出席したすべての構成員から「異議はない」とされ、具体的な事業の進行にあたって、留意すべき点が意見として挙げられた。

これらを踏まえて「市の対応方針(案)」及び「新門司工場基幹改良工事(延命化)(案)」について市民意見を募集したところ、延命化は行わずに他のシステムへの変更を提案する意見があった。

提案されたシステムの導入は、安定したごみ処理の観点から、現時点では困難であるが、先進都市の取り組み事例や技術革新の動向は、引き続き注視していく。

以上のことから、検討会議で挙げられた留意点としての意見や市民からの意見を踏まえ、新門司工場の延命化に関する検討を進め、事業内容がより具体化された後に、事前評価2を行うこととする。

○公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応

資料2：「公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応」のとおり

○市民意見の概要とその対応

資料3：「提出された市民意見の概要及びこれに対する本市の考え方」のとおり

公共事業評価に関する検討会議における留意点とその対応
(対象事業：新門司工場基幹改良工事（延命化）)

市の対応方針（案）
計画通り実施

	公共事業評価に関する 検討会議での意見	市の対応方針（案）
(1) CO₂排出量の削減について	国の補助金を受けるための要件である、CO ₂ 排出量の3%以上削減を達成できるよう、工場設備の改修に取り組んでいただきたい。	CO ₂ 排出量の削減が、脱炭素化社会の実現に繋がることから、設備の省エネルギー化や廃棄物発電の効率化、コークス使用量の削減につながる焼却炉の改良により、削減率の向上を図る。
(2) ごみ処理体制について	3つある工場の建替え、基幹改良のローテーションを適切な時期に行い、安定的にごみ処理が行えるようにしていただきたい。	人口やごみ量推移を見極めながら、ごみ処理に支障を来さないよう工場の整備計画の策定を行っていく。
(3) ごみ処理工場の防災について	災害が発生しても、都市機能が維持できるよう、今回は基幹改良工事であるが、工場の耐震性やアクセス道路の確保などについて、できる範囲で検討していただきたい。	ごみ処理工場は、市民生活に欠かせない社会インフラ施設であることから、工場の耐震性の確保を図るとともに、災害発生時のアクセス道路の確保について関係者との協議を行う。

提出された市民意見の概要及びこれに対する本市の考え方
 (対象事業：新門司工場基幹改良工事(延命化))

以下に市民意見の概要および意見に対する市の考え方を次のとおり公表します。

■意見募集期間

令和4年2月17日(木)から令和4年3月18日(金)まで

■意見提出状況

(1) 提出者：1人(電子メール1人)

(2) 提出意見数：1件

(1) 事業の必要性に関するもの・・・1件

意見の概要	本市の考え方	方針・計画への反映
<p>延命化は中止し、バイオ炭などを生成する熱分解システム炉への取替えを提案する。</p>	<p>本市では、新門司工場の特性を踏まえ、建替えとの比較検討を行い、経済性や環境負荷を総合的に勘案し、基幹改良による延命化に向けた準備を進めています。</p> <p>ご提案の熱分解システム炉は、熱分解により、ごみを炭化する方式と推察しますが、国内で稼働中の施設は少なく、処理能力も小規模なものと聞いていることから、安定したごみ処理の観点から、本市施設への導入は現時点では困難と考えます。ご理解をお願いします。</p> <p>なお、先進都市の取組み事例や技術革新の動向については、2050年に向けた脱炭素社会の実現を見据え、引き続き注視してまいります。</p>	<p>計画への追加・修正無し</p>